

桜ゴルフ創業・佐川八重子の55年間の足跡

『いついかなる時も心豊かに』

経営には試練が付きまとう。時代の移り変わり、そして環境変化もあって、企業経営も浮き沈みすることがある。そうした試練を佐川さんはしなやかに乗り越えてこられた。

いま、しなやかに。という言葉を使ったが、修羅場を乗り越えるというのはそう簡単ではない。文字通り、血を吐く思いで事にあたるわけで、本人の努力、踏ん張りがあったもので



佐川八重子・桜ゴルフ社長

ある。

佐川さんは、1970（昭和45年）26歳でゴルフ会員権ビジネスを創業された。戦後25年が経ち、高度成長期の真っ只中でありゴルフ場、ゴルフ人口も増え始め、社交の場としても注目を浴びていた時期。

しかし、会員権ビジネスは社会的にそれほど認められた存在ではなかった。そういう時期に佐川さんは起業し、一つの立派な事業として育ててこられた。その真摯な姿勢に既存の主要産業のトップたちが、応援する輪が広がっていった。

もちろん、経営は自立（自律）の精神が基本。自分の足で立つということであり、周囲の経済リーダーの応援といってもそれは精神面でのものであった。

当時は戦後25年で、まだまだ男性中心の社会。女性が経営者

になることはまだ少なく、不義な場面も体験された。

男女雇用機会均等法が1986年（昭和60年）施行。その男性中心の世界で踏ん張ってきたのが佐川さんである。

お天道様がみている。という言葉がある。佐川さんの頑張る姿を見て、例えば当時金融界の大御所、正宗猪早夫氏（当時日本興業銀行頭取）現みずほフィナンシャルグループ頭取）もその一人。興銀は戦後日本の復興そして高度成長を成し遂げるため重要な資金の出し手としての役割を担ってきた銀行。鉄鋼、化学、造船、機械などの主要産業はもとより、高度成長の末期にはニュービジネスの掘り起こし、振興に努めてきた金融機関でもある。

そうした当時の産業、金融業界の首脳たちも佐川さんの行

動・活動をしつと見守っていたのであろう。

しかし試練は容赦なく襲ってくる。佐川さんは人づてに某ゴルフ場経営を依頼され引き受ける。だが、石油ショックなどの環境変化もありまた、そのゴルフ場自身が負の遺産を抱えていることを知ったのはあとのことである。それでも自分が引き受けた以上、その負債を完済する覚悟で仕事に臨んでいった。そしてそれを見事に達成する。

「経営は人なり」という。佐川さんもまた、社員を大切に経営を実践。経営者には努力とともに忍耐、そして公平さ、そして時に相手を許すところなどが求められる。そうした資質は幼少期に受けた周囲の教えが基本になる。

特に「母の教えは大きい。『できないという言い訳は絶対許せない母でした。そして嘘をつくことは、絶対に許しませんでした』という母親の教育である。佐川さんの人生の足跡をたどる」と。

（村田記）

草分けとしての使命をもって——（第1回）

「ゴルフ場会員権ビジネスを健全な職業に持っていきたいという思いで起業しました」

自らの手で道を切り拓く——。今から55年前の1970年、女性が働くということがまだ珍しい時代に、ゴルフ場会員権ビジネスの起業に立ち上がった桜ゴルフ社長の佐川八重子氏。当時の会員権業界は、まだビジネスとして業界が確立していない時であった。「コンサルティングは意義のある仕事なのに、社会に信用されないわけがない。必ず私が新しい道を切り拓いて、ゴルフ会員権を健全な仕事として社会的認知が得られるような職業に持っていく」と佐川氏は起業を決意。これまで試練をどう乗り越えてきたのか、佐川氏のこれまでの人生に迫る。

ゴルフ業界を変える！という思いで起業

佐川さんはゴルフ会員権ビジネスというサービス業界をつくり、今日まで発展させてこられました。いろいろな困難や試練があったと思いますが、桜ゴルフを創業する前の話を少し聞かせてくれませんか。

佐川 私は高校卒業後、デザイナーを目指し新宿の文化服装学院に通っていましたが、ある時、ふと目に留まったゴルフ会

社の「秘書募集」の求人広告に吸い寄せられ、この世界に飛び込みました。1965年、21歳の時でした。何がきっかけでゴルフの仕事を選んだのかと申しますと、高校時代、千葉で運送会社を経営していた叔父の手伝いで行った名門コース「袖ヶ浦カンツリークラブ」で、これまで見たことのない優雅な別世界に遭遇したことが大きく影響しています。広大な敷地に展開する美しい緑のコース、豪華なクラブハウスで交流する特権階級

の人たち……。それは夢のようでした。「私も大人になったらこんな世界に入りたい」と強い憧れがあったからだと思います。

強の機会でした。しかし、その会社は経営が不安定で、スポンサーから匙を投げられ、私も約二年で退社をすることになりました。ただし、非常にアイデアマンの社長でしたから、紳士録や高収益企業から話題の人をビックアップしては心にくい手紙を出し、電話で営業するなど、経営者としては少々問題がありましたが私にとっては学ぶことが多く、今の仕事の基礎となっています。

佐川 初めての会社は秘書として入社したもの、それは名ばかりで、何からかまで、特にキャンセルになったお客様を説得することが私の仕事でした。今考えると、素晴らしい勉

二つ目の会社から、「ぜひ営

桜ゴルフ社長

佐川 八重子

Sagawa Yaeko



さがわ・やえこ

1944年千葉県生まれ。62年デザイナーを目指して文化服装学院に入学。その道を断念、ゴルフの世界に入る。65年東洋ゴルフ、67年日之出ゴルフを経て、70年10月に桜ゴルフを創業。71年株式会社に改組、代表取締役就任。

大きな痛手を負った私は、正宗さんは「法的には責任がないが、君らしい。対処の仕方的人格が表れる。頑張れ」と励ましてくださり、どんなに心強かったことか。生きる力を与えられました。

佐川 大きな痛手を負った私は、正宗さんは「法的には責任がないが、君らしい。対処の仕方的人格が表れる。頑張れ」と励ましてくださり、どんなに心強かったことか。生きる力を与えられました。

佐川 私は「とんでもないことです。かえってお気を遣わせて申し訳ございません」と申し上げました。涙があふれ、手を握りあったことが昨日のことのように思い出されます。

(次号につづく)

先の親睦倶楽部「日本商工倶楽部」の会員に推薦を受けました。会員には日本興業銀行のOBの方が多く、500社にも及ぶ優良企業の集まりの中、初の女性会員として大事にされ、やがて私のゴルフ会員権ビジネスにも大きくプラスになりました。厳しい環境を乗り越えることができたのも商工倶楽部の皆様に支えていただいたおかげです。この商工倶楽部こそが私の成長の原点だったといえます。特に日本興業銀行の元頭取、

正宗猪早夫さんとの出会いもこの倶楽部であり、若かった私の経営人生の険しい道のりを、父のようにあたかく見守ってくださった大恩人です。

佐川 私のお人生で一番大きな出来事でした。建設途中の新設コースの救済を頼まれ、私は株式の半数を買う条件で、副社長としてそのゴルフ場に経営参画しました。念

願のゴルフ場進出でした。しかし共同経営者が1年もしないで経営権を第三者に売ってしまうという背信行為があり、やむなく経営から手を引く羽目になったのです。そのため、集めた100名の会員に、6億円相当の返済責任を負うことになりました。

期待に応えられない慙愧の気持ちから死も考えました。この時ほど追い詰められたことはありません。清算には14年もかかりましたが、言葉には表すことのできない試練の日々でした。

佐川 そのゴルフ場は、ソニーが関わっていたと聞きました。

佐川 そうなんです。最初はソニーさんが認可を取り、創業者井深さんに信頼されていたゴルフショップのオーナーが経営を引き継いだのですが、結果的にはソニーさんのご厚意に応えられずゴルフ場を売ってしまわれました。会員への補償は私が責任を取りました。

井深さんはそのことを分かっておられ、晩年財界のパーティーにお見えになった折、車いすで私のところへ駆け寄り「あなたには大変迷惑をかけてしまった。申し訳ない」と謝られるのです。

佐川 そんな一幕があったんですね。

佐川 期待に胸膨らませて入ったゴルフ界の実態は、思い描いていたものとは大きくかけ離れていました。お客様のレベルは高いのに業界のモラルがとても低く、既存のゴルフ会員権を扱う業者は僅か三社でした。

1960年代後半のゴルフ会員権業界は、まだビジネスとして

佐川 私の足跡を振り返れば、いろいろな試練がありました。最初から勇気あるスタートをしたようですね。

佐川 私どもは第二次ゴルフ場建設ラッシュ、第一次ゴルフ会員権ブームの幕開けとともに、1970年（昭和45年）に

佐川 好景気もつかの間、二度にわたるオイルショックを凌ぐのは並大抵の苦労ではありませんでした。景気が悪化し、売り上げも12億円まで落ちましたが、このような時こそお客様の相談に力を入れ、また、ここがチャンスと女性社員教育を徹底しました。不況下にあっても銀行はお金を貸してくれない、誰も助けてくれない。私がやめたからこの大切な仕事を誰がやるのか。その切実な思いから生まれたコマースシャルが「草分けとしての使命」です。

佐川 私は幸運なことに会社を始めて2年目に、興銀の取引

業としてお勤めしてほしい」と声をかけられた時は、道義上、同業者に移ることはできないとお断りしましたが、「前の会社で断ってきた」ということで転職。その会社には営業として三年間お世話になりました。

そこは男性中心の職場で、男性に混じって競争することはとても楽しく、相当営業力がついたと思います。男性に負けていませんでした。もちろん、女性ならではの丁寧な仕事、お客様の立場に立ったアドバイスが評価され、実績も上げ、貢献しました。

佐川 興銀の応援があつてこそ、

佐川 銀行に借入を申し入れると、「女性の経営者にお金は貸せない」と堂々と言われた時代です。お金もなければ信用もない、その上お客様もいない。「これまでの取引先はもっていかない」と前の会社に自ら約束をしたため、ゼロからの出発でした。ゴルフ場の会員名簿や企業の総務部長宛に手紙を出し、あとは広告を頼るのみでした。とは言っても日経新聞には手が届かず、日刊工業新聞と日刊スポーツの案内欄に広告を載せました。「あなたのゴルフプランは私にお任せください。佐川八重子」と名前入りの広告は、大変な反響でした。マスコミも取り上げてくださり、「女性だけの会社、事務所は銀座の一等地」

と話題になり、田中角栄政権下の高度成長時代の波に乗り、桜ゴルフは倍々ゲームで売り上げを伸ばし、創業3年目で32億円の売り上げを達成しました。

佐川 その後オイルショックが襲いましたが、受けた影響は少なかった。



さがわ・やえこ
1944年千葉県生まれ。62年デザイナーを目指して文化服装学院に入
学。その道を断念、ゴルフの世界に入る。65年東洋ゴルフ、67年日之出
ゴルフを経て、70年10月に桜ゴルフを創業。71年株式会社に変更、代
表取締役就任。

佐川 夢にまでみたゴルフ場
経営でしたが、共同経営者が株

—— 新規会員募集はどうで
したか。
佐川 初めてのゴルフ場進出
ということもあって、会員には
日本銀行、元日本興業銀行の
方々をはじめ、証券、金融界を中
心とする錚々たる方々が100
名、顔を揃えてくださった。こ
どの人もゴルフ場の理事長にな
れるような方ばかりでした。
—— それなのに経営が破綻
した理由は何ですか。
佐川 夢にまでみたゴルフ場
経営でしたが、共同経営者が株

式を売却してしまつたのですか
らどうしようもありません。1
年半で経営から手を引くこと
になりました。私が優位になるこ
とへの恐れからだったと思いま
すが、本当に残念でした。
併せて会員に対する多額の返
済義務を負うことになったので
すが、6億円もお金は簡単に
は返せません。14年かかりまし
たが、どれほど働いたことでは
う。夜は声が出ないほどでした。
—— その時、正宗猪早夫さ
ん（元日本興業銀行頭取）など
も心配されたと言
っています。
佐川 そうだと思
います。事業の
失敗で身内も疎遠
になる中、正宗さ
んは必ず会ってく
ださつた。本当に
ありがたくて、し
ばらく涙が止まら
ないこともありま
した。長い返済の
日々、投げ出した
い時もありまし

た。そこに「ソニーさんが手
掛けていたゴルフ場が途中で止
まっている、それを佐川さんな
ら起こすことができるのではな
いか」、そんな話が銀行さんか
ら舞い込んできたのです。
「場所は御殿場の富士山を望む
一等地にあり、これほどの材料
は他にはない、ただしそこには
ソニーさんから委託を受けた経
営者がいるので共同経営者とし
て参画してはどうか。成功した
ら貴女が社長をやりなさい」と
いうお話でした。

が、道を外すことなく来られた
のは正宗さんのおかげです。
—— 大変な思いをしても頑
張れた原動力は何でしたか。
佐川 やり逃げなければとい
う使命感でしょうか。これだけ
の財界人に応援されたのですか
ら、迷惑はかけられませんか。私
は上場したいという思いもあり
ましたから、人生に汚点は残せ
なかった。
—— ゴルフ場の挫折、そし
て再生から学んだことは。
佐川 勝気な私から勝利者意
識がなくなり、敗者の痛みや悲
しみが少しは理解できる人間に
なつたようです。

ゴルフ場経営の挫折は、私を
大人にしてくれました。人生い
ろいろなことに遭遇しますが、
大事なことは「解釈」であるこ
とに気が付きました。相手を責
めるより、「自分が愚かであつ
た」と反省し、「良かったことは
人のおかげ、悪かったことは自
分のせい」と考えないと事は前
に進みません。多くのことを学
びました。さらに、同事業の

体験から、女一人では組織を動
かす限界を感じ、この頃から男
性の活用を試みました。
—— ニュービジネス協議会
—— 事業は人と人のつなが
りがあって成り立つわけですが
佐川さんは一般社団法人東京ニ
ュービジネス協議会（NBC）
の運営にも積極的でした。
佐川 はい。借金の返済は確
かに大変でしたが、本業である
ゴルフ会員権ビジネスは順調に
改善しておりまして、視野
を広げるためにも外に出たくな
りました。同じ業界の人との関
わりの中で、井の中の蛙にな
りたくないという思いから商工
会議所を覗いたりしてしました
ら、ある日、野田一夫さんにお
日にかかり、ニュービジネス協
議会の発足のお話を聞かされた
のです。
—— NBCは設立から40年
になりましたね。佐川さんは早
くから理事として、女性経営者
委員会の委員長として活躍され
ていました。

困難に負けない胆力——（第2回）

「大事なことは起きたことへの『解釈』。ゴルフ場経営の挫折はわたしを大人にしてくれました」

経営には浮き沈みがつきもの。高度成長期が終わり、2度のオイルショック、バブル崩壊なども体験。時代の変化の中を生き抜くには何が必要か。桜ゴルフ創業者佐川氏は、借金6億円を抱えながら、それを返済し、事業を持続させてきた。景気の良し悪しに左右されがちな会員権ビジネスを、どのように再生させ、生き抜いてきたのか。また、四番目の経済団体として立ち上がったニュービジネス協議会では女性経営者委員会を設立。女性企業家支援にも尽力している。試練を乗り越えてきた原動力とは何か。

ゴルフ場再生で学んだ事

—— 佐川さんは、バブル崩壊で破綻したゴルフ場経営の再生を引き受け大変な苦勞をしたということですね。高度成長期の1974年（昭和49年）には環境規制が厳しくなりましたね。
佐川 はい。当時は森林保護法等から開発許可を取るのが難しくなり、建設途中で止まっていたゴルフ場がたくさんありました。私が関わったのはソニーさん（現ソニーグループ）が認

可を取つたゴルフ場で、入会者受付には申込者が殺到したそうです。実際に私がゴルフ場経営に進出したのは1980年（昭和55年）で、桜ゴルフの10周年の時でした。
—— 難しい時代にあえて、ゴルフ場経営に取り組んだ理由は。
佐川 二度にわたるオイルショックを凌ぐ中、どんなに良い仕事をして人も人様の商品、やればやるだけ虚しさが募り、「我が商品」ゴルフ場を持ちたい」という気持ちに駆られていきま

した。そこに「ソニーさんが手掛けていたゴルフ場が途中で止まっている、それを佐川さんなら起こすことができるのではな

いきましたか。
佐川 もともとそのゴルフ場には元三井銀行や東京電力の有力な方々が残っておられ、とても心強い協力者ではありましたが、当の社長がほとんど何もしない方で、私が会員募集の他、銀行交渉、建設会社交渉、地元対策までやらなくてはならず、共同経営に暗雲が垂れ込めてきたのです。どんなに材料が良くてもこれでは何も進まない」と頭を悩ます毎日でした。

桜ゴルフ社長
佐川 八重子
Sagawa Yaeko



尊敬する正宗猪早夫さま(写真右)と藤沢徳三郎さま(写真左)



楽しかったNBC。前経済安全保障担当の高市早苗さん(左端)、ユニ・チャーム取締役ファウンダーの高原慶一朗さん(左から2人目)、元日本電気社長の関本忠弘さん(左から3人目)、シダックス創業者の志太勤さん(右端)と

佐川 NBCは1985年

(昭和60年)に当時の通産省(現経済産業省)の肝いりによって創設された経団連、日本商工会議所、経済同友会、日経連(日本経営者団体連盟)当時。後に経団連と統合)に次ぐ経済団体です。初代会長は多摩大学学長を務めておられた野田一夫先生でした。しかし野田先生が一年で退任されたため、代わってNECの関本忠弘社長がNBCの会長に就任されました。副会長には土井定包さん(大和証券)、小林陽太郎さん(富士ゼロックス)、大川功さん(CSK)、高

原慶一朗さん(ユニ・チャーム)など、全ては思い出せませんが実力者の方が名を連ねていました。そこに、志太勤さん(シダックス)、女性では今野由梨さん(ダイヤル・サービス)、それに私も理事の末席に加えていただきました。

関本会長は人の意見をよく聞き積極的に議論もし、大塚公平でスピーディーな運営でした。—— 関本さんは進取の気性のある方でしたね。

佐川 英国首相のマーガレット・サッチャーさんの講演を企画したことでしょうか。世の中はソフト化・サービス化で構造の大転換が進む中、女性企業家の進出が話題となっていました。燃える女性経営者委員会の活発な活動は、当時のNBCの目玉でした。

佐川 サッチャーさんは「女性性は感性が鋭く意思決定力に優れており、経営者になる素質がある。女性は家事を通じやりく

りを身に付けている。場が与えられれば必ず人は育ち、大きく成長する。Yes, we can!」とって女性たちをたたえました。また会場から日頃の心得についての質問に一言「Be Ambitious(大志を抱け)」とお答えになりました。

—— 今はいくらくらいに。佐川 一時は大分下げたのですが、名門コース群は10分の1〜8分の1くらいまで回復しております。

佐川 それは、市場規模を超えた乱開発と、償還不履行が主な要因と思われます。ゴルフ場の成長期と言われた昭和40年代、50年代は、右肩上がりの経済。ゴルフ場の供給不足もあって、10年単位で500コースの参入が適正と言われておりましたが、昭和60年代に入って、倍の1000コースが開発に着手したのです。大幅な供給過剰の上、バブルの崩壊にも見舞われ、退会する会員に預託金が償還できず、その結果ゴルフ場の大倒産が始まったということです。

佐川 1990年には桜ゴルフも売上が300億円に達し、公開目前まで準備したのです

—— 時の人のサッチャーさんをよく招聘できましたね。

佐川 日本経済は金融緩和を背景にバブルへと突入、ゴルフ会員権相場は狂乱市場が展開され、投機マーケットと化し、第二次ゴルフブームは常軌を逸していました。

佐川 それまでは買い替え需要が多かったのですが、バブル期には売らずに買い増しをする。そうなるとうちに物件がなくなり相場がどんどん上がってしまふのです。

佐川 1990年には桜ゴルフも売上が300億円に達し、公開目前まで準備したのです

—— 1980年代後半は、世の中は投資ブームで、ゴルフ会員権も「億カン」が登場しましたね。

佐川 そうなんです。あの時小金井カントリー倶楽部は約4・5億円、箱根カントリー倶楽部は1・5億円、相模原ゴルフクラブ、戸塚カントリー倶楽部など、億カンが15コースもあ

再びゴルフブームを迎えて思うこと

—— 1980年代後半は、世の中は投資ブームで、ゴルフ会員権も「億カン」が登場しましたね。

佐川 そうなんです。あの時小金井カントリー倶楽部は約4・5億円、箱根カントリー倶楽部は1・5億円、相模原ゴルフクラブ、戸塚カントリー倶楽部など、億カンが15コースもあ

—— 1980年代後半は、世の中は投資ブームで、ゴルフ会員権も「億カン」が登場しましたね。

佐川 そうなんです。あの時小金井カントリー倶楽部は約4・5億円、箱根カントリー倶楽部は1・5億円、相模原ゴルフクラブ、戸塚カントリー倶楽部など、億カンが15コースもあ

—— 1980年代後半は、世の中は投資ブームで、ゴルフ会員権も「億カン」が登場しましたね。

佐川 そうなんです。あの時小金井カントリー倶楽部は約4・5億円、箱根カントリー倶楽部は1・5億円、相模原ゴルフクラブ、戸塚カントリー倶楽部など、億カンが15コースもあ

—— 1980年代後半は、世の中は投資ブームで、ゴルフ会員権も「億カン」が登場しましたね。

佐川 そうなんです。あの時小金井カントリー倶楽部は約4・5億円、箱根カントリー倶楽部は1・5億円、相模原ゴルフクラブ、戸塚カントリー倶楽部など、億カンが15コースもあ

佐川 1990年には桜ゴルフも売上が300億円に達し、公開目前まで準備したのです

佐川 1990年には桜ゴルフも売上が300億円に達し、公開目前まで準備したのです



さがわ・やえこ
1944年千葉県生まれ。62年デザイナーを目指して文化服装学院に入学、その道を断念、ゴルフの世界に入る。65年東洋ゴルフ、67年日之出ゴルフを経て、70年10月に桜ゴルフを創業。71年株式会社に改組、代表取締役就任。

困難に負けない正義感・使命感が道を切り拓く——（第3回）

「人生やれないことは何もない。そう思ってた突き進んできました」

2020年、桜ゴルフは創立50周年を迎えた。記念すべき半世紀の節目に中期ビジョンを策定し、新たなスタートを切ろうとしていた矢先、新型コロナウイルスが列島に上陸。時、ゴルフ場は休業を余儀なくされ、桜ゴルフの電話は鳴らなくなった。「万事休す」——そんな言葉が佐川氏の脳裏をよぎったのは瞬だけ。やがてコロナ禍はゴルフ業界にとつて逆風どころか追い風となり、第3次ゴルフブームが形成された。桜ゴルフの55年は幾多の困難に見舞われた歴史でもある。その時、佐川氏は社員とどう向き合い、どのように危機を乗り越えていったのか——。

桜ゴルフ社長
佐川 八重子
Sagawa Yaeko

中期ビジョンが動き出す

—— コロナ禍が始まった2020年は、桜ゴルフさんにとって創立50周年の記念の年でしたが、新たな構想を立てていたのでは。

佐川 そうなんです。無事50周年を迎えることができましたので、次なる10年に向けて桜ゴルフ中期ビジョン（5年）を策定。スタートのための準備に入ろうとしていたところでした。具体的には前半の2年で「本

業のゴルフ会員権売買事業の1層の強化」、ゴルフ場、練習場との連携、広報や自社ホームページの充実など。そして「桜ゴルフ総合研究所の強化」、ゴルフ場の調査分析に加えて、評価システムの事業化まで検討しておりました。後半では、これまで実現できなかった「全国主要都市展開」、あとは「桜ゴルフアカデミー」、人材教育の事業化をする予定でした。—— 希望にあふれた50年の始まりだったんですね。今年は

コロナ禍を乗り越え、第三次ゴルフブーム形成

—— ところで、コロナ禍に

55周年。コロナ禍によりスタートは5年遅れましたがいよいよ始まりますか。

佐川 5年計画を3年でやり遂げなければなりませんね。ITやAI化が進む中、情報化に対応できるよう昨年よりシステムのリニューアルに取り組んでいます。仕事のやり方も含めて体系整備をしているところです。

よりゴルフブームが起きるとは、誰も予想できませんでしたが、現在も活発な市場が続いています。最初は大変だったでしょう。

佐川 これまで経験のない事態に戸惑いました。感染対策で行動制限がかかる中、一時ゴルフ場は休業を余儀なくされ、桜ゴルフの電話も鳴らさず「我が人生これで終わりか」と思いました。しかし、経営者がうろたえていたのでは社員が不安になるばかりです。私は逆境であれば

あるほど冷静になり、力が湧いてくるのです。

—— それでどのような行動を起こされたんですか。

佐川 「皆恐れることはない、私は創業期、何もない状況の中

から丁寧な仕事でコツコツお客様を作り、今日を築いてきた。今の桜ゴルフにはたくさんのお客様がいる。有事の時こそ積極的に丁寧な電話をし、お客様との絆を深めるべき」と社員を勇

気付けました。コロナ禍でのお仕事は皆新しい挑戦と思って取り組みましたが、創業当初の営業手法が活きてきました。まずお手紙を書く、電話で丁寧なコンサルティングをし、商談をまとめる。そういう意味では、これまでの私どもの仕事のやり方はテレワーク時代に即している気が付きました。

「ゴルフはドクターストップがかからない限りやめられない、楽しいスポーツ」。だからゴルフファーは必ず戻ってくると信じ、緊急事態宣言の暗闇の中をひたすらに進みました。

—— そうして1回目の緊急事態宣言明け2020年5月に状況が一変したと。

佐川 はい。季節もちょうどゴルフシーズン。皆さん家から出たいという気持ちがあったのでしよう。果こもりから解放されるように一気にゴルフ場に詰めかけ、ゴルフ場は予約が取れないほどの賑わいでした。その結果、会員権相談が殺到したと言って良いでしょう。

—— ゴルフは三密を避ける屋外スポーツとして脚光を浴びたわけですね。

佐川 2020年からの5年間で、会員権相場は約30%の上昇が見られました。個人は予算を上乗せして良いコースを買い、風潮が定着し、法人は旧来の名門コースを高額でも求める。名門回帰の動きが活発となり、バブル期を彷彿とさせる勢いに目を見張りました。リゾート人気が加わり、相場の伸びは全国に及びました。政府の旅行支援などからレジャーの分散化もあり一時の過熱感は落ち着いたものの、依然として会員権需要は旺盛で、このゴルフ人気は当面続いていくものと思います。

人生100年時代、コロナ禍はリタイア後の長い人生をいかに心豊かに過ごすかを考える貴重な機会となりました。

若い経営者に伝えたいこと

●数々の難題をどう乗り越えたか

—— 佐川さんは女性経営者

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

●私がやらなければ誰がやる

—— 激動の55年、困難な状況をどう乗り越えて来たのです

●疑問に思ったことは必ず解決する

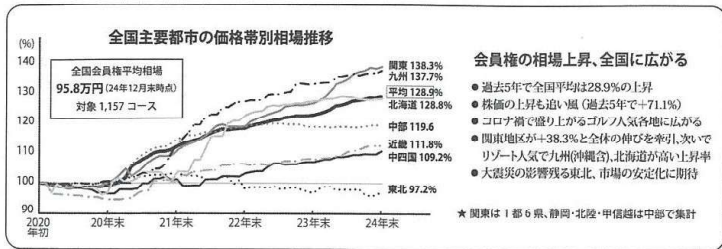
—— ゴルフ会員権事業は当初銀行からお金が借りられず苦

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。



のはしりでもありますが、男女問わず若い経営者の面倒をよくみていますね。若い経営者に伝えたいこと

佐川 経営者になるという事は挑戦するということであって、難題にぶつかること

●まずは社員を信じることから

—— 長い道のり、いろいろ問題があったと思いますが、社員にどう向き合ってきましたか。

佐川 中小企業はいつも人手不足。管理が十分できておらず、どこか会社でも小さな不正や裏切りはあるでしょう。問題はいかにそれをさせないようにするかです。

私は毎日の出来事を社員に全て話しています。55年の長い道

のり、苦楽を共にしてきた社員は、社長の良いところ悪いところ、会社の全てを見ています。会社が苦しい時、社長が会社への貸付金を放棄して会社を助けたら、ゴルフ場の倒産問題など会員の側に立って奔走する姿を目のあたりにし、社員たちはみんな応援してくれているのです。

佐川 昔は厳しかったのですが、今は社員から「優しい」と言われるようになりました。でも、教育は真剣勝負。話し合って納得したはずの社員が、明日は会社に来ないのではと心配になることがしばしばあります。男の子だって泣くこともあります。私は男が泣くのは恥ずかしいことではないと思っています。

佐川 いろいろありますが、まずは社員を信じることから始めたい。大きな問題が起きた時はできるだけ静かに対応し、私が気を付けてあげられなかったことから反省し、「もっと話し合っ

あげるべきだった」「非は私にあった」と私が正せば社員は心から反省してくれました。

佐川 佐川さんは50周年のお祝いをポケットマネーから出されたそうですが、予想外のご褒美に皆驚かれたことでしょうか。

佐川 今どきお話しにくいことですが、一生懸命に働いてくれた社員への感謝の気持ちです。皆泣いて喜んでくれました。

●人材採用にあたって大切にしていること

—— 桜さんは礼儀正しい会社として有名ですが、どう人物を採用していますか。

佐川 「優しい心を持つている人」「嘘をつかない正直な人」「素直な人」を重視しています。創業20周年までは女性が主体の会社でした。親切丁寧で細かいサービスはお客様に喜ばれました。女性たちは優秀でした。今は男性が半分以上ですが、少々緩慢になっていきます。感性の高い女性たちの集まりは純粋力があり、美しかった。男性は面子を気にし過ぎて手間

連載 創業55年、経営の先達から受けた人生訓（第4回）

「成功した人は幸運を手にしたのだから、兄弟や周りの人の面倒をみるのは義務」と諭されました

強い信念と抜群の行動力でゴルフ会員権ビジネスを「健全な職業」へと推し進めてきた佐川八重子氏。その行動は各界要人の目に留まるところになっていく。佐川氏は政治家に人脈を広げ、時には行政を動かす大仕事までやっていた。一体、どうやってこの豊富な人脈を築き上げることができたのか。カギは、銀座に事務所を構えた時、銀座の主から勧められた「趣味」である。趣味を通じて出会った方々の言葉や振る舞いから多くのことを教わり、事業を進めていく。桜ゴルフの55年は佐川氏の「趣味」と「出会い」なくして語れない。

桜ゴルフ社長
佐川 八重子
Sagawa Yaeko

「三つの趣味を持ちなさいと言われた」

—— 経営者には、思うことは必ずやり遂げるという強い信念が求められますが、佐川さんは、ゴルフ場会員権の売買を立派な会員権ビジネスに育てあげてきましたね。

佐川 長い経営者人生で、経営者の先輩の方々と知り合っていて、いろいろな有意義なことを教えていただきました。そして、小唄や囲碁を通じて人間関係を

作らせてもいただきました。小唄や囲碁などの趣味を始めたきっかけは。

佐川 銀座で会社をスタートさせた時、やはり、銀座の主といわれる方へのご挨拶が人事と考え、ご挨拶まわりをしました。和光、資生堂、ワシントン、三笠会館、くのやなど8社ほどの方が会ってくださり、銀座に店を置くことの心構えを教えていただいたのです。そこで、3つの教えをいただきました。「名刺交換をしたからといって

すぐ商売するような下品なこととしてはいけない」「三つの趣味を持ちなさい。趣味を極めれば人間関係ができ、やがて仕事はついてくる」「貴女はまだ若くて綺麗だけど、50歳、60歳になってもいつまでも綺麗でいるのだよ」

—— 「三つの趣味」とは。佐川 私も気になったのでお尋ねすると、「ゴルフ・囲碁・小唄」のことでした。ゴルフはやっておりまして、小唄と小唄を始めることにしました。

政治評論家の細川隆元さんのお付き合いがあったのですが、「君はいつも質問ばかりしているね。酒を飲んでるときは小唄でも歌って大人の仲間入りをしなさい」「小唄は政・財界人が皆やっている。君も始めたらどうか」と言われ、師匠を紹介していただきました。

—— 小唄を通じてどんな出会いがありましたか。佐川 財界人が小唄を嗜む小唄の会がいくつかあり、私も頻繁に顔を出しました。近年の話

ですが、経済同友会関連の同友クラブに小唄会を作り歌田勝弘（味の素元社長）さんが会長、私が事務局をしております。また、今井敬（新日本製鐵Ⅱ現・日本製鉄名誉会長）さんとは、今井さんが代表の久友会で年3、4回、小唄を一緒に楽しませていただいております。

小唄は男女の色恋を歌ったもので邦楽のいいところを凝縮した素晴らしい芸術です。

伝統芸能を残したい
稲山嘉寛さんの思い

—— かつては料亭の接待で

小唄を歌うことが盛んでした。時代も変わり、そういう機会も減っているようです。

佐川 当時経団連会長だった稲山嘉寛さんとは「名門会」という小唄会で一緒に歌っていた。稲山さんは「日本の大切な伝統芸能、小唄を残していかなければならない」と運動されていたのですが、晩年、それを私に託されたのです。

—— 世界の人に知ってもらおうとテレビ番組を作られたのです。

佐川 はい。早速、テレビ東京

囲碁は経営哲学に通じる

—— 囲碁はどうですか。

佐川 囲碁は忙しさにまけてなかなか始められませんでした。きっかけは、創業20年のお祝いに日本興業銀行頭取（現みずほフィナンシャルグループ）の正宗猪早夫さんから棋盤を頂いたことです。この時、紹介されたのが私の師匠の棋士、石倉昇さんです。石倉さんは東大の囲碁チャンピオンで3年間興銀

に勤務したという経歴の持ち主です。

—— 囲碁界でも活動されていますね。

佐川 日本棋院の理事として普及活動のお手伝いをしていきます。また、30年前から「全日本女流アマチュア囲碁選手権大会」を後援しています。



さがわ・やえこ
1944年千葉県生まれ。62年デザイナーを目指して文化服装学院に入学。その道を断念、ゴルフの世界に入る。65年東洋ゴルフ、67年日之出ゴルフを経て、70年10月に桜ゴルフを創業。71年株式会社改組、代表取締役就任。



忙中閑のひととき。囲碁、小唄、日本舞踊に心癒された。



紀伊國屋創業者の田辺茂一さん(左から3番目)と作曲家の服部良一さん(左端)

「マウント富士」として発表された曲です。「上手いじゃない」「何かが違う」と言っては、よくカナユニに呼び出されました。全く世界の違う私のお話が気分転換になられたのでしょうか。新しいものを生み出すのは大変なこと。おそばにいて、呻吟する芸術家の心の裡を垣間見ました。

―― 服部先生からはどんな事を学びましたか。

佐川 はい。30代半ば、私がゴルフ場経営の後始末に加えて兄弟のことで悩んでいた時のことです。「挫折によって人は力を与えられるものです。成功した人は幸運を手にしたのですか

「から、兄弟や周りの人の面倒をみるのは義務です」と私を諭してくださいました。

そして「自分は音楽バカだから人に迷惑をかけてきたが、少しは有名になると立派な友人が増え、そういう人たちに利口にしていただいた」と仰るのです。そのお姿に、謙虚に生きることの大切さを教えられました。

服部さんは社歌を依

—— 服部さんには社歌を依頼されたと聞いています。

佐川 はい。「新しいものももう作れない。でも、サンレモ音楽祭でロミ・山田さんが歌った『君の名はさくら』は名曲なので君の歌にしてほしい」といわれ、自筆の楽譜を頂きました。

稲盛和夫さんから激励

—— バブル崩壊後はどんな人たちと出会いましたか。

佐川 京セラ創業者の稲盛和夫さんと銀行の集まりや新聞社の勉強会で時折お目にかかっておりましたが、初めてお声をかけていただいたのは二十年ほど前。「厳しい環境で、よく頑張

本田宗一郎さんの
ダイナミックな講演

ホンダの本田宗一郎さん流がありましたね。

佐川 小唄を勧めていただいた細川隆元さんから政治評論家の藤原弘達さんを紹介され、「こうたつ会」(本田さんを囲む会)に参加する中で、ゴルフや宴会にご一緒しました。

—— 本田さんの思い出はありますか。

佐川 本田さんが保有していたゴルフ会員権資産は全て桜ゴルフが預からせていただきました。まだ三十代の私を信用していただき、とても感謝しております。本田さんは個人事務所を銀座に持つておられ「桜さん、桜さん」と呼んでは講演に連れ行っていました。

実践的経営者の講演はダイナミックで説得力がありました。「成功は99%の失敗に支えられた1%だ」、また、「外国人は『やあ本田さん、元氣でしたか』と名前を呼び声をかけるが、日

本人に名前を呼ばない。名前を呼べば「一層親しみがわき、良い人間関係を築けるのに」と仰っていました。

一流ホテルやゴルフ場では、お客様に対して敬意を表して名前を呼んでいますが、特別な対応に感じられ、それは気持ちが良いものです。

作曲家の服部良一先生から教えられたこと

—— 作曲家の服部良一さん
とも懇意にされていましたね。

佐川 服部先生にはじめてお会いしたのは、私の行きつけの店、元赤坂のレストラン「カナユニ」。パレンタインデーにたまたまお席になったので、「素敵なお召し物ですね」とお声を掛けて下さいました。それ以来、奥様と久兵衛でお食事をされた後は必ずカナユニにいらつしやう、私は奥様公認のお相手だったのです（笑）。

当時、服部先生は50代後半音楽活動の集大成として交響詩に取り組まれていました。後に

苦言は戒めと受け止めて

—— 先人から受けた言葉を
今、どう受けとめていますか。

佐川 時代時代の大物といわれる方にお声をかけていただきたいことは、大変幸せなことでした。一方、苦言を呈してくださる方もいらっしゃいました。

二十九歳。会社が絶好調で有頂天になっていた私は高輪の高級マンションを1億2千万円で

「若い時にそんな贅沢をしてはいけない。銀行の頭取だって、しもた屋に住み質素な生活をしている。それを買うなら、今後二度とあなたとは会わない」と強く諫めてくださったのです。

また、「テレビに出たり派手なことをしてはいけない」と叱つてくださった方もいます。

嫌な事を指摘してくださるのは本当にありがたく今でも私の戒めとなっています。先人から受けた恩を、「恩送り」で後輩の経営者達に伝えなければいけないという想いです。(以下次号)



さがわ・やえこ
1944年千葉県生まれ。62年デザイナーを目指して文化服装学院に入學。その道を断念、ゴルフの世界に入る。65年東洋ゴルフ、67年日之出ゴルフを経て、70年10月に桜ゴルフを創業。71年株式会社に改組、代表取締役役に就任。

「試練の時に支えになったのは松原泰道・禅師の言葉」

【連載（最終回）】弱音を吐かない、人に優しくという生き方――

経営者はいろいろな試練に接する。そんなときに心の平静をどう保つか――。佐川さんの場合は己を修行によつて悟りを得る「禅の教え」が影響した。ゴルフ場経営を引き受け、多額の返済を負った。本人は、これは私の試練と受けとめ「責任を全うする」と踏ん張っていたとのことである。禅の大家・松原泰道師に学び道元禅師（曹洞宗開祖）の奥深い教えに触れた。「仏門に入らなくても生活そのものの中に修行があると松原先生に教えていただきました」と佐川さんは振り返る。何より幼少期の両親の教えも大きく、「これができないと言いつつは嘘をつくと母は絶対に許しませんでした」と述懐。一生学びの時はつづくという佐川さんの人生である。

桜ゴルフ社長
佐川 八重子
Sagawa Yaeko

返済完了後「仏門入り」を決意

―― 桜ゴルフの55年は波乱万丈の長い道のりでした。事業を放り出そうと考えたことはなかったのですか。

佐川 設立10年目の集大成として取り組んだゴルフ場事業に失敗し、6億円の返済責任を負いました。清算には長い年月を要しましたが、その時、「この返済を終えたら二度と事業社会に戻るまい、仏門に入りたい」と本

気で思ったことがありました。―― 返済を終えた時はどんな気持ちでしたか。

佐川 洗礼を受けたような清々しさに満たされましたが、それも束の間、それが終わると、バブル崩壊後のゴルフ場の大倒産により、ゴルフ場の信用が問われました。そういう中で、諦めずに頑張れる自分にやれられない虚しさを感じたのです。―― そうした心境の中、仏教に惹かれていったということ

0冊注文し、お世話になった方々に贈らせていただきました。―― 佐川さんは仏教についてはどう考え、どう接していたんですか。

佐川 私が起業して間もない頃、経営者の間で仏教の講演会など一種のブームが沸き起こっていました。松原先生の『般若心経入門』もベストセラーになっていたのですが、実は「経営者が宗教などに頼るのはおかしい」と私はブームに背を向けていたんです。今考えると、創業してすぐに32億円売り上げて、うぬぼれや驕りがあつたのかも

しれません。―― それで、ゴルフ場経営に失敗して、心を痛めている時に松原先生の教えに出会ったと言うことですか。

佐川 はい。ゴルフ場経営の挫折を経験し、変なプライドがなくなった私に、松原先生の教えはすんなりと心に落ちてきました。経営者は挑戦の毎日。全て自分の決断で進むため常に孤独との戦いです。―― 具体的に松原先生の『道元』から学んだことは？

佐川 一番心に残っているのは「愛語よく廻天の力あるを学

ぶすね。

佐川 はい。桜ゴルフは2000年に設立30周年の節目を迎えるのですが、この時読んだのが、松原泰道先生の本です。先生はこの年に『道元』（アート・デイズ刊）を出版されたのです。松原先生は仏教の本質を平易に語る当代随一の禅者です。道元は『正法眼蔵』の作者ですが、これは難解な本として知られています。『道元』は道元禅師（曹洞宗開祖）の奥深い教えを分か

すべきなり」という一文です。愛語とは思ひやりのある言葉のこと。廻天の力とは古来中国の絶対者であった天子の考えをも翻させるほどの大きな力を指します。つまり「口先だけの言葉でなく、心から発する言葉だからこそ、人の心を打つ」、「思いやりのある優しい言葉には、天地をもひっくり返すような力がある」ということです。

「事業を通じて十分修行をしている」

―― 松原先生に「仏門入り」は相談されたのですか。

佐川 はい。私は松原先生に「ゴルフ場の問題を解決したから仏門に入りたい」とご相談したところ「あなたはゴルフ場の事業を通じて十分修行をしているので、その必要はありませんよ」とはつきり言われました。さらに「あなたは心優しい人なのだから、辛かった体験を糧にして、苦しんでいる人のために聴き役になり、多くの人の辛い気持ちを受け止めあげなさい」と諭されました。

りやすく説いた名著でした。「仏道をならう」と言いますが、松原先生は仏門に入らなくても生活そのものの中に修行があるという道元の教えを説いておられました。

―― 佐川さんは直に松原泰道先生と会われたことがあるんですか。

佐川 はい。出版社の紹介でお目にかかるのですが、感激して30周年記念に『道元』を100

松原先生のお言葉の数々に救われ、止まっていた私の心が動き出した気がいたしました。それ以来、私に相談してくる方に対して一層丁寧にお話を聞くように努めています。少しでも苦しみを取り除いて差し上げることが私に課せられた「修行」です。―― 言葉は人を生かし、傷つけないので、心を込めた温かい呼びかけでなければならず、日々言葉の大切さを実感します。

「片手に論語、片手に算盤」佐久間惣治郎先生の教え

―― 佐川さんは禅の道に触れることにより経営者として新しいステージに入ったのだと思いますが、こうした考えにいたる経緯を教えてください。

佐川 私の高校（千葉女子経済高校、現・千葉経済大学附属高校）の創立者、佐久間惣治郎先生の教えが私のバックボーンになっている気がします。佐久間先生は90年前、渋沢栄一さんによって掲げられた「片手に論



年輩いた両親と温泉でくつろぐ佐川さん

佐川 私にとって母
そういう光景を目にし
ていたのです。

昔、祖母の世話をする私を見
て、母がボツリと言いました。
「私も人生の最後は八重子さん
ね。」

私どもの社名は桜に因んでい
ます。これからのこの歌のよう
に、女性の柔軟さや生きた知恵
を、仕事の中や私自身の経営にも
取り込んで活動してまいります。

(了)

の親戚には教育にかかわるもの
が多く、自分が教育を受けてい
なかったことに引け目を感じて
いたようです。
姉たちが子供の頃、夜中にト
イレに起きると母が子供たちの
教科書や新聞を読み、勉強して
いる姿を見たそうです。姉たち
は必ず私たちが学校の先生にな
って母を救いたいと思ったよう

です。実際、2人の姉は学校の
先生になりました。
相手を傷つけずに反省させる
—— 佐川さんはお店をよく
手伝ったそうですね。
佐川 末っ子でしたから家の
ことからお店まで母と一緒にな
って働きました。

は、物事の公平さ、許す心、忍
耐、感謝の大切さを言葉ではな
く、生活の中で、自分の行動を
通じて教えてくれました。
昔は習い事をする家などなか
った時代でしたが、「女のたし
なみ」と言って姉たちにはお花
やお茶の先生をつけていまし
た。私は小学校4年生から中学
校までピアノや踊りなどお稽古
をさせてもらいました。

のそばに行きたい。その一言
が心の奥底に残っていたので
す。仕事のどん底の時、何も言
わずに見守ってくれた母は人生
最高の教育者でした。
—— 最後に、佐川さんが大
切にしている和歌を紹介してく
ださい。
佐川 「敷島の 大和心を
人間はば 朝日に匂ふ 山桜
花」(大和心とは何かと問われ
たら、朝日に赤く色づく山桜の
花と答えましょう)という本居
宣長が詠んだ歌です。日本を代
表する知性と言われている小林
秀雄先生(1902—1983)は当社のお客様でもありま
したが、先生によると、この歌
の大和心とは、雄々しき男性の
心ではなく、伝統的な日本女性
の生きた知恵ある柔らかな心の
ことだということです。



「仏教の本質を平易に語る当代
随一の権者」松原泰道先生

語 片手に算盤」を建学の精神
として前身の千葉女子商業学校
を設立されました。「仕事は利
益を得れば良いというものでは
ない。おのずと倫理観がなければ
いけない」という教養で徳育
と職業教育を融合させた、ユニ
ークな教育で知られていました。
—— 「女性教育」について
佐久間さんはどんな考え方を持
っていたんですか。
佐川 明治の殖産興業以来、
渋沢栄一さんは金融、保険をは
じめ、鉄道、ガスとあらゆる事
業を次々と興し、日本資本主義
の生みの親といわれます。その
渋沢さんは、「良妻賢母」型の教
育を標榜してきましたが、佐久
間先生は「良妻賢母でかつ経済
的に自立した女性」を育てる必
要性を説いていました。

—— そうした問題意識から
学校を設立された。
佐川 ええ。当時の千葉市の
人口は5万1000人、38%が
商家だったそうですが、それだ
け商家があるのに女子教育をす
る場所がなかったのです。
私は高校時代、論語の勉強を
一生懸命したわけではありませ
んでしたが、週に一度、論語音
読の時間がありました。先生方
は道徳心のある人間づくりに重
点を置き教育してくださってい
たのでしよう。今もなお、その教
えは私の心に生き続け「倫理あ
る仕事」は事業経営において重
要な基本精神となっています。
言い訳や嘘は絶対許さない
—— ところで、人の資質形
成には家族の存在も大きく影響
しますが、ご両親の教えなどに
ついて聞かせてくれませんか。
佐川 佐川家は元々、武士の
流れをくみ、父の時代までは太
田道灌(1432—1486)の
一族会に入っていました。父
は大工の棟梁で工務店を営んで

いました。寡黙な人でしたが、
大工たちによく、新聞を読んで
聞かせていました。母は雑貨商
を営んでいました。家族は両親
と祖母、兄弟8人の11人、それ
に雇っていた大工さんが5〜6
人とお手伝いさんを加えて20人
ほどの大所帯でした。母はその
大所帯の食事の世話から子供の
教育、さらにお店のことまで一
人で切り盛りしていたのですか
ら、大変だったろうと思います。
—— 地方で自らの商売にも
きちんと取り組んでいた。
佐川 そうなのです。食事も
お風呂もおやつも全て使用人が
先で、「使用人大事」の考え方が
ありました。結局はその方が皆
よく働いてくれることに繋が
り、商売も繁盛していました。こ
うした経験が、社員を大切にし
たいという今の私の考えに結び
ついているのかもしれない。
ただし、母は家族にはだいいぶ
厳しくしていました。そうする
ことで他人への示しにもなった
のかもしれない。

は叱られましたか。
佐川 子供たちが何もしない
で「これができない」と言い訳し
たり、嘘をつくとは母は絶対に許
しませんでした。兄や姉たちは
相当厳しく叱られていました。
私は末っ子ということで、見逃
されることもありましたが、
「寒い」とか「疲れた」と言う
と、「冬だから寒いのは当たり前」
、「疲れたと言えれば余計に疲れる」
とたしなめられたものです。
—— 8人兄弟を育てるのは
大変なことだったと思います。
佐川 はい。出来の良いのと
悪いのがいて、母はいつもでき
の悪い方の味方でした。欠けて
いる部分を埋めるのは出来る者
の役目ということなのでしょう。
—— お母さまはどういう方
でしたか。
佐川 母は生い立ちをあまり
話してがありませんでした。警察
官の家に生まれ、大火事を出
し、村を追われ、小さい頃から
東京に奉公に出されたよう
です。佐川家に嫁いだものの士族